住みよいたけし

住みよい武石をつくる会広報
第37号
2023年6月16日発行
事務所　武石地域総合センター内
TEL:0268-85-2511
https://www.s-takeshi.jp
印　刷　中澤印刷株式会社

天地(あめつち)の神(かみ)にぞ祈(いの)る朝凪(あさなぎ)の海(うみ)の如(ごと)くに波(なみ)たたぬ世(よ)を

4月23日、下武石の大宮諏訪神社春祭りで“浦安の舞”が奉納されました。

大宮諏訪神社は、主に七ケ地区の皆さんが氏子になっている神社で、毎年4月に春祭りが開催されています。今年は初めて浦安の舞が奉納され、地域の皆さんに披露されました。

浦安の舞は、長和町古町の豊受大神宮1月のおたや祭りで毎年奉納されていますが、舞姫は依田窪南部中学校の生徒が募集されています。今年は初めて武石七ケの舟木香乃さんが参加しました。

舟木さんが舞姫に参加したことや、豊受大神宮の宮司が大宮諏訪神社の宮司を兼ねていることもあり、氏子総代会や七ケ自治会の協力により、今回大宮諏訪神社での奉納が実現しました。この日は舟木さんを含め、3年生の4人が舞いました。浦安の舞は、「天地の神にぞ祈る朝凪の海の如くに波たたぬ世を」の和歌に曲と舞を付け、世の平和と地域の平穏な暮らしを天神と地神に祈るものです。

集まった皆さんは「おたや祭りで舞われることは知っていたが、こんなに間近で見ることはなかった。衣装も含めて地元の神社の境内で厳かな雰囲気を感じられてとても良かった。」と話していました。

住みよい武石をつくる会 定期総会開催

2022年度総括と2023年度事業計画を審議

テーマ

人々が明るく支えあう安全安心なまちづくり
地域資源を生かした地域づくり

住みよい武石をつくる会は4月27日定期総会を開催し、2022年度事業報告と決算及び2023年度事業計画と予算などが決定しました。昨年はコロナ禍のため総会を開催せず、規約により正副部会長で構成される運営委員会での決定であったため、総会は2年ぶりの開催となりました。また今年は2年任期の役員改選期であるため、正副会長等の改選・承認も行いました。

開会で児玉卓文会長は、「住みよい武石をつくる会は、発足時、住民が様々な問題を解決するために自ら実行し住みよい地域づくりをしていきたいとしてこの名称になった。発足して6年が経過したので、この間の検証をし事業を再構築していきたい。」とあいさつしました。来賓として、4月から武石地域自治センター長に赴任した酒井センター長、及び松尾卓・高田忍両市議会議員からも祝辞をいただきました。

総会終了後引き続いて6つある部会を開催し、各正副部会長の選出や事業方針の検討などを行いました。

(1) 2022年度事業報告、決算

❶ 2022年度事業

22年度もコロナ感染症の影響が残り、引き続き会の活動は制限されていました。話し合いや相談が会の活動の原点であり、地域活性化のためには人が集まる行事がメインであるため、大変苦しい活動となりました。こうした中で会の自主事業のほか、他団体との協働・協力、調査や研修への参加など次のような事業を実施しました。

- 熊沢峠トレッキング、健康ウォーキング（2回）
- たけしカルタ歴史さんぽみち（2回）
- 道路環境クリーン大作戦（県道沿い草刈り）
- 武石八景案内看板設置（2か所）
- 農産物直販の取り組み実験
- 松くい虫防除事業の参加・協力
- 移住・空き家対策学習会
- 福祉講演会参加、診療所医師との懇談
- 広報発行6回、エリアトーク、ホームページ更新
- その他

❷ 2022年度つくる会会計の決算概要

●一般会計

歳入総額	3,063,731円
歳出総額	2,927,358円
差引	136,373円

・歳入は、市からの交付金2,913,162円、前年度繰越金136,357円、雑収入14,212円です。

・歳出の主なものは、つくる会の委員・役員手当549,000円、事務職員賃金1,195,151円、部会活動原材料230,490円、バス借り上げ料152,200円、広報印刷費571,000円等です。

❸ エリアトーク事業

エリアトークの加入世帯851戸（世帯加入率72.7％）、放送回数は1,067回（臨時放送、自治会長放送は含まない）となっています。

●エリアトーク特別会計決算概要

歳入総額	4,095,846円
歳出総額	3,511,094円
差引	584,752円

●エリアトーク積立金

残高　1,400万円（250万円積み増し）

・歳入内訳

加入者負担金3,790,000円（4,000円/台・年）、有料放送等手数料41,400円、前年度繰越金264,420円など。

・歳出内訳

アナウンサー賃金626,356円、中継局等電話料277,128円、設備器具保険料53,660円、器具更新のための積立金2,500,000円などとなっています。

(2) 2023年度事業計画・予算

❶　2023年度は、武石まちづくり計画に基づく次のような事業を計画していきます（他団体と共催、後援を含む）。

・熊沢峠登山
・武石の縁が輪事業の運営支援
・地域農産物供給実証実験
・武石夏祭り参加
・健康ウォーキング
・たけしカルタ歴史さんぽみち
・空き家対策・移住交流の研究
・武石八景看板設置
・高齢者居場所作りの研究
・広報、ホームページ、エリアトークの充実

❷　一般会計の予算は、歳入歳出とも前年度当初予算とほぼ同額の3,231千円で、歳入は市の交付金が3,084千円、歳出内容は前年度とほぼ同じとなっています。

❸ エリアトーク事業

●予算総額

歳入・歳出　4,351千円

内訳は

・歳入は、加入者負担金が3,720千円、前年度繰越金が 584 千円。

・歳出は、人件費、通信費などの運営費が1,462千円、設備更新の積立金が2,700千円などとなっています。

(3) 役員の改選

２年の任期が満了したため正副会長、監事の改選が行われました。児玉裕二副会長が退任し、北沢茂さんが新副会長（広報副部会長兼任）に選任されました。また、各部会では正副部会長が互選されました。

会　長	児玉　卓文
副会長（会計兼務）	北沢　　茂
副会長	廣川　光子
監　事	池内　俊郎
〃	橋詰真由美

部　会	部会長	副部会長
ふれあい交流部会	依田　享敏	清住　宗広
自然・生活環境部会	橋詰　明徳	櫻井　壯一 荻原　光雄
産業建設部会	橋詰真由美	柳沢　裕子
健康福祉体育部会	金井　　建	畔地　政彦
子育て教育文化部会	橋詰　秀行	清住　洋子 大沢　拓真
広報部会	宮下　政登	北沢　　茂

3年間待ちわびた花桃散歩

今年は例年にない暖かい春でコロナ禍も小康状態で、余里の一里花桃は3年ぶりの人出となりました。4月20日、上田は気温30.2℃で全国4番目の暑さ、花桃の駐車場は平日にもかかわらずお出かけを待ちわびた人たちで一日中どこも満車状態、県外ナンバーも多く見られました。暖かさで開花も余里地域一斉に例年より2週間ほど早くなってしまいました。

佐久市から訪れた前島さんご夫妻は、今年初めて登場した人力車に乗って紅白に染まった余里の風景を楽しんでいました。

ジャガイモ植え

4月29日、つくる会産業経済部会では、親子農業体験として下本入の畑でジャガイモ植えを行いました。3組の親子が参加し種芋を丁寧に土の上に置いていきました。部会では、草取り作業もしてもらい5月20日に播種したトウモロコシと一緒に8月に収穫祭を計画しています。

おさんぽギャラリー春

武石風土つなぎ隊は、4月29日恒例の「おさんぽギャラリー春」イベントを開催しました。今回は常設のピザ窯を使ってのピザ焼き体験をメインに行いました。昼頃には焼き立てのピザを求めて、特に若い皆さんが列を作っていました。

景観ウォッチング
～武石地域の歴史的風致～

上田市都市計画課主催の「景観ウォッチング～武石地域の歴史的風致～」が5月20日（土）に開催されました。

上田市は神社仏閣等の歴史的建造物と地域に根差した民俗芸能や年中行事等の人々の活動が一体となった歴史的風致を維持・向上させ、後世に継承していくための「歴史的風致向上計画」を2月に策定し、市内6つの風致地域を指定しました。

今回は武石の風致地域の景観ウォッチングとして子檀嶺神社や御柱祭行事のルートを中心に、下武石の三寺院や武石城の『館』の痕跡及び大宮諏訪神社・武石公園を市内各地から参加した15名が巡りました。講師には、市文化財保護審議会長でもあるつくる会会長の児玉卓文氏があたり、参加された皆さんは、水が張られた田園風景とも相まった武石の郷の歴史的な風致とその景観の魅力を堪能していました。

第2回信州上田 武石復興支援マルシェ
おいしい、楽しい、笑顔広がる

＊ステージイベント
金管バンド（武石小、丸子中央小）、ダンスショー、太鼓他多数出演
＊カラオケバトル
＊出張麺武将（ラーメン店3店舗出店）
＊マルシェ（飲食、クラフト）等

日　時　7月1日（土）　9:00～16:30
場　所　武石地域総合センター特設会場
主　催　武石地域復興支援マルシェ実行委員会（かじかや他）

お知らせ

第7回仮装大賞が開催されます

日　時　9月17（日）13:00～
場　所　武石地域総合センター

出場者を募集します

問い合わせ　武石風土つなぎ隊
柳沢さん TEL：090-5790-4508

第19回 たけし歴史さんぽ道

森厳な余里東替の石尊様 Ⅳ

郷土史家 児玉卓文

『武石村誌　民俗』(平成元年)の「さまざまな講」に、鳥屋と小沢根の石尊信仰について次のような記録があります(215ページ)。

鳥屋では、「山の神の仲間と同じ者で講を組んで、第二次世界大戦まで大山の口開けの七月下旬に代参(代表者が参詣する)をしてきた。祭典の当番の家では各戸から一尋の長さ(両手を伸ばした長さ)のすべ縄を集めて、講仲間が寄って悪魔除けの長い草履を作り、片方づつムラの出入り口の二か所につるした。」

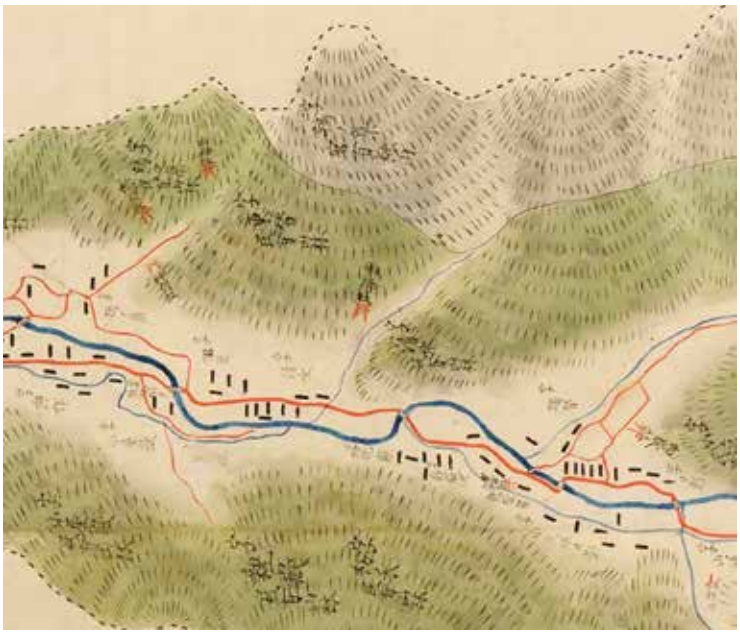
小沢根では、「大山石尊への代参をやめて久しく、ムラ内に勧請されている石尊の小祠(しょうほこら)を中心としたムラ祭りの形に移行している。7月17日のこの日区有林の手入れを済ませ、火の番の不動と並ぶ祠へ灯篭をあげて祀り、各戸から負担金として大麦1升を出してもらったので、大麦まつりの別称で呼ばれた。大夕立のある時季の祭りで、昔使った法螺貝に錫杖(僧が持ち歩くつえで頭部に数個の環が付く)の頭と石尊の御掛け軸がある。」

余里の石尊信仰はどんなだったのでしょうか。明治政府はその初期に、『皇国地誌』という書物の編さんを企て、県をとおして全国の村々に村の地理や歴史を書いた『村誌』を編さんして提出することを命じました。続いて、村の地図を作成して提出することも命じました。

各県は、専門の掛を設けて国と連絡を取りながら、各村々を指導してこの仕事に当たりましたが、多くの県ではなかなか仕事がはかどらず、ついに国はこの事業を中途でやめてしまいました。しかし、長野県は史誌編集掛丸山清俊(東御市大石村)の尽力があり、明治18年までにこの仕事を成し遂げました。

『余里村誌』は「雨降社」があるとし、「社地東西5間、南北8間(約9×14m)、面積反別1畝10歩、本村の東南方字ホドカイにあり。祭神相模国雨降社に同じ、祭日7月15日。」と記しています。絵図は、この時に旧余里村が提出した『余里村絵図』の一部です。(多くの村が、技術者がいなかったので昔ながらの絵図を提出しています)真ん中に「雨降社」とあるのが石尊様です。

現在は特に祭りは行なっていませんが、7月末に地区内の小社・祠に一斉に張る注連縄をこの石尊社の真ん中にある祠の地に張っています。



余里区が奉納し、石尊様への登り口に立てられた幟が保存されていました。「天地奇妙境 昭和35年」「威哉神之徳　昭和45年」と記されているので、昭和40年代までは何らかの神事が行われていたと思われます。また、元旦の夜明け前に白装束(修験者の姿か)で錫杖を鳴らしてお参りする専任の方もいたと言いますし、公民館の庭には、参道の沢に渡したと思われる「余里中」と刻まれた一畳ほどの平石が移転されています。しかし、相模の大山への代参などの話は聞けませんでした。

石尊社への登り口の字名は「清水」ですが、地元の方は付近を「オッタシ」とも呼ぶようです。「オッタシ」は「押し出し」の意味と思われます。「清水」と「杉原」の地形は、大昔に山崩れで余里川が東の山際から西の山際に押しやられた台地と思われ、その後も小さな押し出しがあったのかも知れません。すると、雨降社は水を鎮める意味も含めて勧請されたのかもしれません。

東替の石尊社境内

武石を盛り上げる人やグループ紹介

武石の人・団体

せんぜい畑の会 会長 大平 将人さん

小中学校保育園野菜供給組合「せんぜい畑の会」というのが正式な名称ですが、名称の文字通りこの会では、武石保育園、武石小学校、及び依田窪南部中学校の学校給食からの注文を受けて、さまざまな給食用食材を供給しています。

自分の子どもや孫たちに、武石の地元でとれた新鮮で美味しい野菜を食べてほしいという想いから、2001年（平成13年）12月に「せんぜい畑の会」が設立されました。

せんぜい畑とは、家の近くにある自家用の野菜畑のことを言います。武石のせんぜい畑で作った野菜はとても美味しいと武石地域内外で評判が高く、「昼夜の気温差が大きい武石地域の気候が、野菜を美味しくしているのではないか」と大平さんは話しています。

「せんぜい畑の会」は現在、生産者17人の他に、小中学校の先生や保育園の園長、栄養士など学校給食の関係者、及び中間の発注・決済・物流などの業務を担う行政、農協職員の皆さん等を合わせて34人の会員で構成しており、学校給食に関連する人たちがお互いに意見交換をしながら会の運営を図っているとのことです。

供給している食材は、ジャガイモ、玉ネギ、トマト、キュウリ、にんじん、長ネギ、キャベツ、白菜大根、カボチャなど約17種類の野菜、また穀物では、米（うるち・もち）、豆なども供給しています。

野菜がたくさんとれる時期（6月～11月頃）には、学校給食からの注文量に対してほぼ100％の供給をしていて、会としての年間供給量は約3トンになるそうです（端境期の12月～5月の間は供給が少なくなります）。

基準が厳しい給食食材ですが、生産者の皆さんは要求に応えるように野菜のサイズ、形などを厳選して対応、また消毒の回数を減らすなどの工夫をしているとのことです。大平さんは、「子どもたちには武石の野菜を好きになってほしい。食べて健康になってほしい」と野菜への想いを話していました。

また、武石地域の皆さんへは、「武石の野菜を作ってみてください。食べてみてください。近隣の上田や丸子、長和の農産物直売所には、武石産の野菜がたくさん出ているのでぜひ食べてみてほしい」とのメッセージを頂きました。

自宅近くの畑でジャガイモの生育を確認する大平さん。今年は学校給食用に約200kgの収穫を見込んでいるとのことです。

ジャガイモ畑の大平さん

アスパラ農家で会員の児玉守さんの畑ではアスパラが次々と茎を伸ばし、収穫、出荷作業に追われていました。「せんぜい畑の会」へは、1シーズン10回程度、合計14～15kgのアスパラを出しているそうです。「これから、玉ネギ、ジャガイモも出しますよ」と児玉さんは話していました。

アスパラ畑の児玉さん